



専門はアジア太平洋の国際関係。99年オーストラリア国立大学博士課程修了、08年早大教授を経て昨年から現職。

氏、アジアには中国と競争で突出した国が現れずすべてのアジア・太平洋にとって大きな貿易相に安全保障上の脅威で、アジアには米国のこの抜きに安全保障を語れないでしょう。軍事で中国と切っても切れない関係にあるわけです。ナタは近くに軍事的脅全保障を米国頼みになら日本と決定的に違いでは米国の関係が極アジア市場への関心が薄済の影響をあまり受け々の国連や北大西洋条T O) 中心の多国間主的な事情と米中の「ね係な」ことにより「脈」で日米関係、特に集行使やTPP交渉参加る必要があり。米界においては安定した済、安全保障上、重要な。マンスフィールドが「世界で最も重要なと呼んだ時代です。2強時代の今、軍事、シアへの関与を深める中で日米関係を構築すます。米国追従と言わ国のアジア戦略に足並ことが地域の安定をもては日本の安全保障に

面では、日本は1999車交渉のように米国とも少なくありません。金融や通商分野で協ています。日中韓の自FTA) やインド、東一ストラリアも含めた連携協定(RCEP)

リレーおぴにおん

NPO法人
ワップフィルム理事長
たかはし かずゆき
高橋 和勸さん



66年生まれ。金融業を経て、04年に俳優に。映画でのまちづくりを提唱しNPO設立。11年4月から現職。「商店街な人」を携え全国を回る。=西田裕樹撮影

変われ商店街 10

僕が本気で作った映画「商店街な人」は東京・蒲田の商店街が舞台。自ら脚本を書き監督もしました。出演者のほとんどは地域の様々な職業の人からオーディションで選び、大田区の商店街や町工場などでロケをしました。この映画をなぜ撮ったのか説明しましょう。大阪ミナミで企業コンサルタントをしていた頃、家紋の研究を始め、自分のルーツが愛媛県の離島だと知りました。先祖はその昔、瀬戸内海の無人島を次々と開拓したという。そんな先祖の行いは、現代でいえば、まさにまちづくり！ そう思いました。

その後、愛媛の同胞の俳優・脚本家の故金子正次の影響で俳優業に転身。映画を通してなら、自分の思いを実現できる、と考えたんです。最近どこか元気がない蒲田を舞台に選び、3年前に撮影開始。一昨年に完成しました。商社を辞めた若い男が故郷の蒲田に戻り、幼なじみの恋人とシヤッター商店街を盛り上げようと映画を撮る中で、次第に地元の強みを知るといふストーリー。最後は、「蒲田の未来を果たして救えるか？」という投げかけで終わります。昨秋から、映画と討論会を組み合わせたフューチャーセッションを全国各地で始めました。上映の後、商店街や

集まれ「商店街な」熱い人

まちの活性化の方法を、一般市民や学者、政治家たちで議論し、次のアクションを考えるのです。

全国を歩いて思うのは、シヤッター商店街になるかどうかは、関わる人の熱さや信頼関係の度合いによるということ。例えば愛媛県内子町は、人口は少ないが地域を自らでつくるという思いが熱く、商店街も生き生きしていた。逆に人は多いのに、元気のな中心市街地の商店街は少くない。

映画のロケ地になった蒲田のキネマ通り商店街も寂しい。そこで、空き家を使いフューチャーセンターをオープンすることにしました。街の人同士や映画で知り合った人たちと交流できる場にするのが狙いです。今度撮る映画の第2弾は、冷めたヤツらが熱いヤツらに触発され、フューチャーセンターを作るという筋。現実の後追いで、映画の続きは現実の人たちで作ってほしいというメッセージも込めています。

映画の題名が「商店街な」なのは、「の」だと商店街の人だけの話になるから。活性化には、いろんな人を巻き込まなければダメなんです。神奈川県藤沢市に住むよそ者として、これからも熱く蒲田のまちにかかわりますよ。

〈聞き手・吉田貴文〉
◇今回は26日に掲載します。

夢を語るのはいいことだ。それも金もうけの夢じゃなく、たとえは東北復興の夢を。「復興、復興っていうけどさ、ただ元に戻すだけの復興じゃだめだと思っただよなあ」

「ごういう状況になったからこそ、まったく新しい発想でつくりかえる……できますよ、きつた。ねばり強い東北人なら」
夢を語るのは自由だ。「仙台はボストンじゃない、ハイデルベル

結